（旬刊）　昭昭23年10月1日發行　THE WAKAYAMA PREFECTURE TIMES　昭和23年3月24日 第3種郵便物認可　（第31號）　（1）

山林業者さんの福音！

造林、林道の開發等に

「政府の融資」

林業資源開發と併せて治山治水のため造林の徹底的な推進を圖ることの必要性については今更喋々を要しないところであるが、その資金は極度に逼迫して居り、更にその性質上金融機關の顧るところとならない實情にあるので政府は農林漁業復興金融對策として國家資金を中核とする暫定措置要綱を決定し、農林中央金庫より概ね左の要領によつて融資することゝなつた。本縣としては久しく之が必要性を强調して來たので期の機會を利用し大いに本縣林業の復興に役立せたいと目下計畫を立案中であり、早急趣旨の徹底に乘出す豫定である。

一、四半期九月分は造林關係六九、五〇〇、〇〇〇圓林道開發一八一五三、〇〇〇圓で本縣に對しては同期間分として次表の如く割當られている。

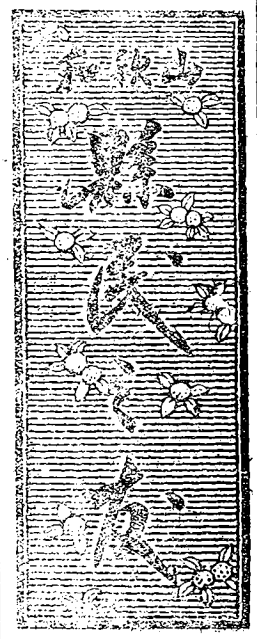
造林
イ樹苗養成　一、〇五六、〇〇〇圓
ロ種子採取　五四、〇〇〇圓
ハ人工植栽　四八〇、〇〇〇圓
　五九〇、〇〇〇圓
林道
二三年度災害林道　一、二〇〇、〇〇〇圓

三、四半期は追つて通知する

本年九月以降二十四年三月迄七ケ月間に要する農林漁業復興資金は一應四〇億圓と査定、中、林業關係の資金は一、三六一、〇〇〇、〇〇〇圓で、主として復興中最も緊急を要する造林費金、林道の開發費金、災害林道の復旧費、これに伴う給與の改正などで、固より舊資金及び輸出の關係より椎茸の原木伏込資金等に當てられる筈である。

貸付の對稱は事業を行う縣森連及森林組合。償還は五年以内（造林事業に限り二十年以内）の定期償還及び二十年以内（據置期間を含む）の年賦償還、但し主務大臣（農林大臣大藏大臣）の承認を受けた場合は三十年以内（據置期間を含む）の年賦償還

據置期間は原則として三年以内特に必要の場合は主務大臣の承認を得て十年以内利息は今のところ未定である。



發行所　酒原書課
和歌山市小松原
和歌山縣秘書課
編集兼發行人　森　慶三
印刷所　和歌山縣印刷所
定價㊎一部六十錢

縣民皆さんにお願い

縣民税三收益税などの増税に關し

現今の經濟情勢下、縣民各家庭の台所は相當に苦心をされていることと思う。

皆さんの家庭が、かく苦心されているように、本縣の台所も度重なる災害や、諸物價の昂騰、これに伴う給與の改正などで、固より貧弱な縣財政は、四苦八苦の狀態である。

勿論縣は經費豫算については、この財政事情の下では、義務的經費の又は特定財源のあるもの以外は、これを計上しない方針で既定豫算についても事業内容を再檢討し、又人件費についても能う限り整理節減を圖ることゝしているのであるが、なお相當多額の歳入不足は如何ともならない實情である。

國税、地方税は唯今でさえ、相當の重荷となつているので、この上增税することはできる限り避けるべきであるとは考えられるが、實殘して、二十五日閉會情已むを得ず、縣民税、地租、家屋税、事業税、特別所得税について標準率二割超過課税することに九月縣議會の協賛を得たのである。

どうか縣民各位におかれては、以上の点を十分御理解の上本縣政のため格別の御協力を切望する次第である。

九月定例縣議會から（1）

九月の定例縣議會たまゝ、今期議會のプロフイールを紹介する週間の會期（劈頭議會）ことにしよう。

一、追悼の辭

開會劈頭議場の空氣は、二十一日開會、一引きしめたものは、十三日は祝祭日で休山崎議員の故田中正藏會、二十二、二十四兩議員追悼の辭であつた二十五日は委員會、二十一、昨年五月民主縣會とし日は本會議で、時代の脚光を浴びて發足以來、既に二回という勉强ぶりで、附の追悼演説である。

議される五千餘萬圓の巨額に上る追加更正豫算と十四件の條例、三十八件の請願處理である。以下筆者の目に耳に感じ追悼の辭が述べられた。

（註、このほか追放關係で辭任された人に、鈴木隆憲の會長、普通地方公共團体の議會に請願しようとする者は議員の紹介により定離の原則から請願書を提出しなければならない、とあり、同第百二十五條には、「普通地方公共團体の議會は、請願を受けたときは、その採擇した請願で、當該普通地方公共團体の長、選擧監理委員會若しくは監査委員に措置すべき事件で、夫々適當と思はるるものは、これを送付し、かつ、その請願の結果の報告を請求することができる。」とある。議會の定めによつて、請願の處理の經過及び結果を議會に報告しなければならない。

議會事務局では、請願の調査課が其の處理に當り、旨を議長に報告する。

議會は、その採擇した請願は、當該普通地方公共團体の議會に送付し、これを送付したものは、その結果を議會に報告しなければならない。

議會は、請願者に對し、その採擇した請願は、當該普通地方公共團体の議會に送付し、その結果を報告する

縣民はどんな病氣で死ぬか？

＝結核につづいて老衰、肺炎＝

諸事に紛れて、病氣にならなければ、さほどの保全と云う「生命」えの人間の本能にもとずいて、表明、具現されるのであるから、先ず健康のことを重視しないのが現在の生活の實相であらうが、健康でなければならないことは、あらゆる生活態度が、壽命の延長、身体

あるが、結核が斷然群をぬいて百人の死亡者中十一人が肺病のために死ぬことが判る。

なお本縣の結核死亡を地域的にみると、伊都郡が量も多く結核死亡者全体の三割八分を占め、東牟婁郡が最も少ない。

これを全國平均率と比較すると、全國では十二人であつて、本縣は全國中第三十位である。

又人口一萬に對する結核死亡率をみると、本縣は十六、全國は十九となつている、これを公衆衛生の發達した、米英と比較すると、米國は四人、英國は六人で本縣の十六人とは比較にならない低率である。

次ぎに全國平均よりも高い本縣の病氣をみると、腸チフス、流感、下痢腸炎及び腸炎（二才以上）、分娩及び産褥、老衰等が上げられる。

その比較表は左の通である。

	腸チフス	流感	下痢腸炎及び腸炎（二才以上）	分娩及び産褥	老衰
本縣	八、五	三、五	六六、四	四、六六	一三、五〇
全國平均	三、八	二、三	五九、七五	〇、五九	一〇一、六三

縣民の一番多く死亡する病氣は、先ず第一番に結核（一一）で、次ぎに死亡率の高い病氣、老衰（一〇）肺炎（八）二才以上の下痢腸炎及び腸潰瘍（六）幼兒の下痢腸炎（四）腎臓炎（三）氣管支炎（三）先天性脆質（三）等の順である。

今こゝに、本縣の昨年度主要死因別統計によつて、縣民の死亡狀態の概要を觀察してみると、數多い病氣の中、何ごとよりも大切であつて、此の点論議の餘地がないのである。

此の表では、本縣で特に死亡率の高い病氣、即ち本縣の特色病ともいうべき病氣が判るが、その中腸チフスとお産の病氣の死亡率が目立つて高いのは、縣民一般の傳染病に對する衛生知識の乏しさと御婦人方の産前産後の不養生を物語つている。

此の様に縣民の死亡狀態をみると、豫防措置、御婦人のお産の病氣、結核、幼兒、成人の胃腸病、傳染病に對する一般衛生及び老人病の早期治療等に充分注意をもとより、幼兒、成人の胃腸病、傳染病に對する一般衛生知識の向上は、青少年期の結核、豫防措置、御婦人のお産の病氣、老衰等の早期治療等に充分注意をすることが、云い得られるのである。

（醫務課）

農村と榮養改善（2）

衛生部長　八尾正夫

國民死亡原因の首位をなすものは結核である事は御承知の通りであるが、日本において、特に青少年に結核のおおいのは日本人が脂ぼうをたべないからであるといはれている。脂ぼうは蛋白質又は含水炭素に比し二倍以上のエネルギーを發生し我々の健康保持及び發育に不可欠のもので、成人においては一日三十グラムを必要とするのであるが農村においてはこの欠乏は特に甚しく一日五グラム程度にすぎない。脂ぼうは消化吸收がおそいためで空腹感のきたるのもおそくしたがつて農村人にありがちの大食をふせぐ事ができるのである。

脂ぼうを澤山ふくんでいるものとしては鳥獸、魚貝、肉、大豆、菜種のほか蚕よくるみには多量である。特にくるみとして價値の少し所謂立体農業に先覺の士からされつゝあるも疫痢は日本特有赤痢菌に關係のていたがその本全な究明を欠い昨年六月アメリ國が來朝鋭意研な事實が判明しは全身けいれんでありこのけいゐの欠乏による疫りが日本特有はとりもなおさ乏が日本特有である。實際にお物はカルシウムないのであつてづれも一日一グるに反し、實際ム小兒0、15グラ

蕎花生、ごま、う、かやの實及にふくまれていは谷間等の耕地い所によく成育の寵兒として夙その栽培を唱導のである。

の病氣であつてある事はわかつ完体については究た、所がカから疫痢研究の結果次の様た、即ち疫痢を伴う所の赤痢れんはカルシウムというのであるであるという事ずカルシウム欠ある事でいて日本人の食量が極度にすく普通成人小奈ラムを必要とすは成人0、3グラム程度しかとつていない。カルシウムは燐とともに骨格や齒の主成分をなすものであつて、小兒の成長發育に必要であるのみならず身体の抵抗力の根源であるから十分にとらなければならない。歐米においては牛乳を常用し主として之からカルシウムをとつているカルシウム源としてはその他小魚を頭、骨、内臓ごとたべ煮干粉、山羊乳をもちいるのもよい。卵のからの粉化もところ々みるべきであり、カルシウム劑を飯その他に混入するのも一方法であるとおもわれる。食物がたりない時にこそ我々は榮養に關する知識をよく身につけ可能な事から實行にうつしていかねばならない　何卒指導者各位におかれては榮養改善指導にあたつては獨斷的非科學的な態度を避けあくまで專門家の意見を尊重し合理的に指導していただきたい。榮養改善が或程度成功した時には過去における各地の成績によれば其後一ヶ年にして病氣なども半減しにという様な驚異すべき事例もあるのである。

◈夫工の理調◈

エジプト米をおいしく召上れ

現今の逼迫した配給生活において、日々苦痛の種の絶えないのは一家の主婦である。

「牛馬の飼料や植物の肥料を喰はすか」と世の男たちは喧すしい中に、それを美味しく食べさせねばならぬ主婦の勞苦は何ものにも增して大といはれねばならない。

現在配給されているエジプト米についても巷間の惡評しきりである。

エジプト米には土、砂、稗等のゴミが多いので、とぎ洗いをよくし、一合に對して一・三―一・五合の水を加えて約三十分間浸し、後内地米と同様に炊くとよい。之は以前配給された南京米に比べると臭氣も少いし營養價値も充分あるから安心して調理されるよう。

（縣入食糧調理指導委員會）

競馬と寶くじ

營縣々愈◈ 第一回競馬

今回競馬法の改正に伴い、地方競馬は縣營として實施することとなり第一回競馬がいよ〳〵十月十七日より十九日まで二十二日より二十四日迄の六日間紀三井寺競馬場で開催されることになつた。

本年八月二十六、七日本縣を襲つた豪雨に依る被害は極めて甚大でその復舊及び救濟事業は重大且つ緊急を要するが、逼迫した本縣財政の現狀では他に財源を求め難いので、寶くじの發行により、資金の一部を調達して本事業の促進を圖ることになつた。

今回のは第三回和歌山縣復興くじと銘うち發賣總額一、〇〇〇萬圓、一枚二〇圓で十月十一日より十一月十日まで賣出されることになつた。

抽せんは十一月十六日で賞金は五〇萬圓一本を始め三本に一本の割合で計二九五萬圓、景品は一等自轉車、高級ラヂオ其他多數用意されている。之に依つて縣では五〇〇萬圓の實收が豫定され、八月二十六、七日の災害救助費、その他復舊費等に充てられる計畫である。

（專業課）

◈賣發のじくの寶◈

本縣民生部世話課では昭和二十一年勅令第六八號に該當するもの

で、總理廳恩給局に於て受給者の請求をまたず、昭和二十一年二月一日附で改定恩給金額を表示した改定又は改定裁定通知書を發行し、恩給局から給與金の支給方の關係書類を添付の上受給者に改定裁定書をかねて受給者に送付している。

恩給證書をかへまし

軍人恩給受け取り

舊

届出の支給郵便局に發送しているが、戰時中の罹災もしくは疎開等により現住所變更のため未だ新恩給證書を受領していない方は、至急東京中央郵便局區内東京貯金支局恩給課又は縣民生部世話課恩給證書の記號番號、支給郵便局名を届出るよう希望している。

凸☆☆ 凹★★ 縦横談（風）（車）（子）

☆役人風（いばりたい）

某日、某課でのこと。中年風の田舎から出てきたらしい主婦が若い吏員の前でおづおづと何か聞いている。彼はうるさそうに顔でしやくつて「それなら向ちらの係だ」とすげない。

それでもほつとしたのか例の婦人は丁寧に頭をさげて敎えられた場所へ……こんな狀景がまだ〳〵多いと見るのは風車子のみのひがめだろうか。風車子の許え持ち込まれる民衆からの口頭の或は文書による苦情は決して少くないのである。それにはそれだけの双方の言い分はあるだろう。

☆役得（こそ）

「月給が安くてもよいことがあるのだろう」とは一般人のつぶやきだろうな。巷のほらしくてものが現實だ。だが廳内にもいろんなデマが流れている。取るに足らない些細事に尾ひれがついて誇大化されるのだろうが「これは臭い」を思われている運中に刈りとつてしまうに限る。これだけ書いて胸に「チクリ」と刺される人たちよ！老婆心ながら敢えて警告を發しておく。

☆縄張（セクショナリズム）

官僚とか派閥とかは現實にはピンポンして「そんなものがこの廳内にもあるのか」と考えられる。實際、個人的には人もこの人もみんないい人ばかりだから――だが自然に同志的になり易くそれが一つのまにか一つの權力的存在となる。見方によつてうつくしい義理と人情の世界であり相互に援助し合う團體ともなる。

この傾向を示してゆくものだ。この際各人が自己ひ判の嚴正忠實であることを希望する。

封建的な兩親にただ漫然と扶養されているな忙殺されることや、託凡そ意味ないもの兒なぞの社會施設の不意と、働く技術と一し備な点であるが、女性だにこの思想を會得し、生活よりこの悲劇の根源は、生活いや、中には能力のないことであつたのは今さらいうまでもない。

例えば、家事に、

生活設備の不完全さ

あろうが、家庭に入つたら、職業を放棄するとの觀念をもつていたら、ロングスカートのいでたちでも腦ミソは古い。女性でも社會を構成する一柱だと自覚を誇りをもつて嫁入り前の腰掛主義は捨てねばならない。

職場娘かたぎ（むすめ）

有本露子

（2）腰かけ主義

職業といえば、女工か賣子か交換手ぐらいであつた。このようにいやしくも女は働くことをいやしとされたのは、此の國の風習であつたが、戰爭の爲に餘儀なく舊來のロウシユウを破り箸より重きをもたぬ旅脫線しの旅行や運動會は面白いわ、と課から白狀され卒直に映畫館えの誘りとしていたいとはまで、白紙に追いまくられて逃げこんだのがはじめであつた。

かし、まじめな女の職業といえば、女工か、生命をもつものは自由でのに求めるのは切に求めた。彼女らは、何時の時代がくん誇箸來戰國でかの

封建的な兩親にただ漫然と扶養されているな忙殺されることや、託凡そ意味ないもの兒なぞの社會施設の不意と、働く技術と一し備な点であるが、女性だにこの思想を會得し、生活よりこの悲劇の根源は、生活いや、中には能力のないことであつたのは今さらいうまでもない。

生活設備の不完全さ

あろうが、家庭に入つたら、職業を放棄するとの觀念をもつていたら、ロングスカートのいでたちでも腦ミソは古い。女性でも社會を構成する一柱だと自覚を誇りをもつて嫁入り前の腰掛主義は捨てねばならない。